

仕事を手際よく進め、気づくと定時でさっと帰宅している同僚や先輩。あなたの職場にも、そんな「要領のいい人」が一人はいるはずだ。でも、要領のいい人ってどんな人だろうか。アンケートから探った。

「自分是要領が悪い」と考える人は約四割。ネット調査会社マイボイスコム(東京・千代田)を通じて全国の会社員(二十一〜五十代の男女千十三人)に実施した調査の結果だ。自分の周りの「要領がいい人」については、半数強が「仕事ができる」と感じしており、約七割が「要領のいい人になりたい」と考えていることも分かった。

# 要領の良くて何?

ほうが優先順位が上だと思つるので、まずはそちらを片づけたい」と笑顔で断る。優先順位の付け方が的確なので、断つても信頼されている。

「せんぼう」の目を向ける。「木曜はゴルフレッスンの日」と公言し、他の曜日に率先して残業したり飲み会に出たりする。だから、みんな木曜は誘われないし、その日は残業しなくても恨まれない。

「なぜ、仕事ができる人は残業をしないのか?」などの著書のある人材プロデューサーの夏川賀史さんは「一般的に『要領が悪い』人は、自分の時間を上司や取引先など他人にコントロールされているケースが多い。だからこそ、主体的に仕事を進められる人を『要領がいい』と感じるのだから」と指摘する。

メールや電話など、コミュニケーション手段の使いこなす方を「要領の良さ」として挙げる回答も多かった。「上司は仕事のメールを携帯メールに転送し、移動中に携帯からどんどん返事を出す。帰社後にメールの対応に追われることがなく、無駄がない」(26歳女性)

## 時間をやり繰り

そこで身近な要領のいい人について、どんな点でそう感じるのか尋ねたところ、約七割が「上司・取引先などの人付き合い」と答えた。

二十五歳の男性会社員は、営業職の上司を「取引先とのスケジュール調整がうまい」

せてしまう。「確実にアポイントが入るので、営業訪問回数が増え、いつも成績はトップ。ぜひまねしたい」

「断り方のうまさ」を挙げられる人も多かった。二十六歳の女性会社員は、多くの仕事を片づける先輩の手際のように感心する。「上司から仕事を頼まれると、内容を確認したうえで『今受けている仕事の

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

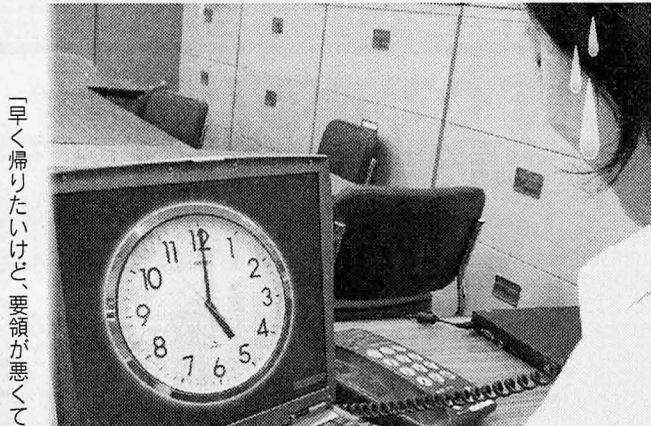
〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

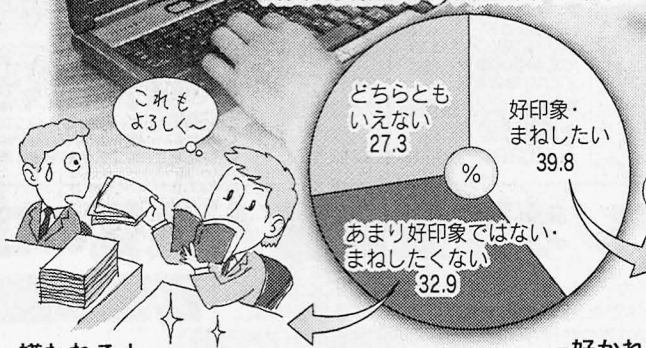
〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね

〇〇君、これ! お願いしますね



周囲の要領のいい人に対する印象は



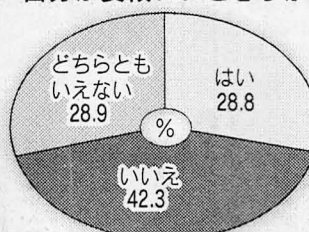
**嫌われる人**

- 面倒な仕事を後輩に押しつける
- 単なる手抜きで自分だけ楽に

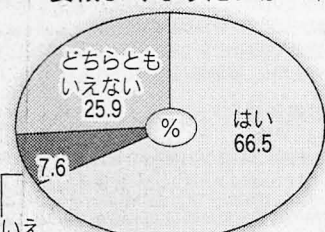
**好かれる人**

- 上司・同僚、取引先を自分のペースにうまく引き込む
- 同僚の利益にもつながるような分担
- 情報機器を駆使

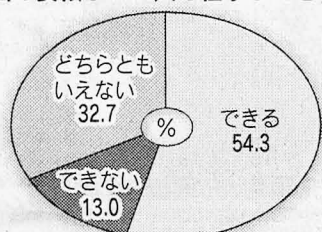
## 自分が要領いいと思うか



## 要領よくなりたいか



## 周囲の要領がいい人は仕事ができるか



(注)調査は全国の営業企画系と事務系の社員に対して5月中旬に実施。男性507人、女性506人が回答

## アポも断り方も自分のペースで

「電話の前に要点をメモにまとめる同僚。伝え忘れがなく、電話に時間もかからない。私もまねしている」(32歳男性)

**押しつけはダメ**

しかしここで、注目したい調査結果がある。自分の周りの「要領がいい人」について、約三割は「あまり好印象ではない・まねしたくない」と答えているのだ。まねしたくない事例として多くが挙げたのは、自分の仕事を人に振る行為。「クレーム処理など、面倒な仕事は後輩にやらせる先輩。そのくせ上司には自分がすべてこなしたように報告するので、みんなから嫌われている」(46歳女性)

同じ仕事を振る行為でも、まねしたいと見られている人もいる。二十五歳の男性は、職場の先輩が新人社員へ仕事を回す様子を「まねしたい」という。「見積書を作成させるのだが、商品の知識が身に付く書類をきちんと選んで振っている。先輩の作業を減らしつつ、任されたほうからも感謝されている」

好かれる要領の良さとは嫌われる要領の良さの違いは「チーム全体の成果につながるかどうか」と話すのは、人材教育会社ビーンスター代表取締役の鶴野充茂さん。書類作成の作業を簡略化するにしても「周囲の人も楽になるような方法ならいいが、自分だけが手抜きをするようなものは嫌われる」というわけだ。

好かれつつ要領良く仕事するにはどうするか。鶴野さんは「『成果の仕事』こそすべき担当業務」と「評価の仕事」個性を発揮する仕事」の両方を意識することが必要」と話す。自分の担当業務を人に押しつけてばかりいると反感を買う。しかし、評価の仕事をおろそかにすれば「言われたことしかできない要領の悪い人」と思われてしまう。両方の仕事を意識し、成果と評価のバランスをとることが、好感度の高い「要領のいい人」になる第一歩のようだ。

「早く帰りたいけど、要領が悪くて…」